海賊戦隊ゴーカイジャー!!絶対に笑ってはいけないのぞヒビ探偵事務所!!

ターザン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

海賊戦隊ゴーカイジャー！！絶対に笑ってはいけないのぞびび探偵事務所！！

【Nコード】

N3613Z

【作者名】

ターザン

【あらすじ】

海賊戦隊ゴーカイジャーがのぞびび探偵事務所で地獄の1日をすいすいす。

プロローグ

海賊戦隊ゴーカイジャーのメンバー6人は突然ターザンに呼び出された。

ターザン「よく来たねゴーカイジャー。」

マーベラス「一体何のようだ、俺達はスーパー戦隊の大いなる力を手に入れるのに忙しいんだよ。」

ジョー「さっさと終わらせてくれないか？」

ターザン「まあまあまあ……皆さんのレンジャーキーにある仕掛けをしましてね。」

ルカ「私達のレンジャーキーに？」

ターザン「その通り、俺に逆らったらビリビリがでるようになっています。」

ゴーカイジャー「はあ!?!」

ハカセ「ちょっとそれどういう事!?!」

アトム「詳しくお聞かせください!?!」

ターザンはゴーカイジャーに指を差す。

ターザン「ズバリあなた達はこれからのぞヒビ探偵事務所で1日探

偵をやってもらいます!!」

ゴークイジャー「はあ!?!」

鎧「い、いきなり言われても困るっすよ!?!」

ターザン「はい逆らった!?!」

ターザンは手に持っているスイッチをおす。

ビリビリビリビリ!!

鎧「うわおおおおお!?!」

ハカセ「あ、あまりの痛さに鎧の音がうらがえってる!?!」

マーベラス「おいてめえ!!こっちはもうちよいで最終回なんだぞ

!!こっしってる間にもバスコに大いなる力を奪われちまう!!」

マーベラスはターザンの胸ぐらを掴む。

ターザン「そ、それは大丈夫ですほら!?!」

マーベラス「?」

ターザンが指を差す方向にはシンバルを持ちメタリックな感じのザルといかにも裕福そうな格好のどっかで見た事ある人がいた。

マーベラス「バスコか?」

バスコ「そつだよマベちゃん。」

よく見ると手錠をかけられている。

ジョー「・・・捕まったのか？」

バスコ「うん。」

ルカ「・・・本気で？」

バスコ「YES。」

ハカセ「・・・なぜ？」

バスコ「なぜでしょう？」

アトム「私達に聞かれても・・・」

鎧「とりあえず安心・・・？」

ターザン「はいレッツゴー!!--」

ゴーカイジャー「待てこらああ!!--」

.....

なんだかんだでのぞヒビ探偵事務所に行く事になったゴーカイジャ
ー、行き方は・・・

マーベラス「バスか!!--」

ターザン「ガレオンは私が預かってます、ちなみにこのバスに乗った瞬間1日絶対に笑ってはいけません。」

ジヨー「なんだそんな事か。」

ルカ「さっさと終わらせよう。」

ゴーカイジャーはバスに乗った。

『海賊戦隊ゴーカイジャー！！絶対に笑ってはいけないのぞヒビ探偵事務所！！』

スタート！！

バス内にて

バス内

マーベラス「何でバスなんだ、そもそもバスなんかで世界のはざまに行けるのか？」

ターザン「大丈夫大丈夫、安心してください。」

ルカ「逆に不安なんだけど。」

そうこうしてるうちにバスが止まった。

ジョー「普通に客が乗ってくるのか。」

ハカセ「……ってあれ？」

ゴーカイジャーは目を丸くした。

????「一度バス内で話そうか。」

????「いいですよ。」

機動戦士ガンダム

アムロ

ブライト

ガンダムのアムロとブライトがバスに入ってきた。

ブライト「せっかくバスに入ったんだ、互いの意見をぶつけようじゃないか!！」

ブライトはアムロを殴りつけた。

鎧「いやいやバス内は静かにしようよ。」

アムロ「・・・殴ったね？」

ブライト「殴って何が悪い!！」

ブライトは両腕を大きく広げ勢いよく後ろを見る。

アムロ「何故うしろを?」

ルカ「さあ?」

ブライトがアムロの胸ぐらを掴む。

アムロ「やめてくださいよ、そんなにガンダムを動かしたいなら、あなたが動かせばいいでしょう!？」

ブライトは再びアムロを殴りつけた。

マーベラス「なんだよあのセリフ言つのかよ。」

ジョー「わけがわからん。」

アムロはブライトを睨みつける。

アムロ「二度もぶつた・・・親父にもぶたれちやこちよ
」 × * !

ルカ「ぶぶつ!?!」

ハカセ「うははは!?!大事なところ噛んだ!?!」

すると

『ルカ、ハカセ、out!?!』

ルカ「えっ!?!」

ハカセ「な、何!?!」

するとバスがいきなり止まるとゴセイレッドがバスに入ってきた。

ハカセ「ゴセイレッド!?!」

ルカ「つてきやあああ!?!」

ルカのレンジャーキーが電気を発した。

マーベラス「お、おい・・・」

ハカセ「ちよつ、何!?!」

ハカセは四つん這いにされゴセイレッドがバットでハカセのケツを叩いた。

ハカセ「ぬああ!?!」

ゴセイレッドは平然と帰って行った。

ジョー「こ、これは……」

ターザン「笑ったら男はケツバット、女は電気ショックなんで。」

ゴーカイジャーは全員鳥肌が立った。

後々お互いをつぶし合う事は言うまでもない。アムロ達は何事もなかったように立ち去った。

……

開始15分

再びバスが止まった。

マーベラス「な……」

???「いやあ、今回もバッジゲットだぜ!!」

ポケットモンスター

サトシ

サトシがバスに入ってきた。

もちろんパートナーのピカチュウもいるはずだが

サトシ「良かったな。ピカチュウ!!」

ピカチュウ? 「ビッグガッチュウウ。」

全身に黄色いペンキをねったくった中年の男だった。

アイム「うっ……」

鎧「ぶはははは！？」

『鎧、out』

次にバス内に入ってきたのは

スパイダーマン「鉄十字キラー！！スパイダーマン！！」

鎧「スパイダーマン！？」

スパイダーマンはゴムでできたバットで鎧のケツを叩く。

鎧「ぎゃあ！？」

……

ゴークイジャーは既につかれはじめていた。

ルカ「でもマーベラスやジョーにアイム、ずるくない？」

マーベラス「笑ってないんだから仕方ないだろう。」

そしてついに始まってしまった。

ハカセ「はぁ……」

アイム「どうしたのですか？ハカセさん。」

ハカセ「・・・布団がふつとんだ。」

マーベラス「・・・」

ジョー「・・・」

アイム「・・・」

ハカセ「・・・ぶつ！！」

『ハカセ、out』

マーベラス「自滅してんじゃねえか。」

再びゴセイレッド参上。

ハカセ「ちよつとダメだつて、ぎゃあ!？」

ジョー「ふつ・・・バカな奴だ。」

ルカ「ていうかジョー、今鼻で笑ったでしょ？」

ジョー「は？」

『ジョー、out』

ジョー「ち、ちよつと待て!!今のは笑いじゃ・・・」

「????」よお!!

ドラベース

シロえもん

ジヨー「ま、待て! ! 野球選手は・・・」

シロ「問答無用おお! !」

シロえもんが全力でジヨーのケツをケツバットで叩く。

ジヨー「ぐあああ! ?」

シロえもんは去っていった。

ジヨー「つ、つぶし合いが始まるとは。」

ターザン「あと10分くらいで到着です。」

マーベラス「長いか長くないかわかんねえなあ。」

アイム「そうです・・・」

アイムがふと外に目をやると

アイム「あははははは! ?」

マーベラス「どした? アイ・・・」

アイム「さ、三輪車あははははは！？」

鎧「ぐははははは！？」

『全員、out』

するとバスが止まり入ってきたのは

「5人揃ってゴレンジャー！！」

偉大なる先輩ゴレンジャーだった。

ゴレンジャー「タイヤ！！」

アカ、アオ、ミドはマーベラス、ジョー、ハカセにケツバット、モモ、キはスイッチを押してルカとアイムに電気ショック。
ゴレンジャーは去っていった。

マーベラス「く、くそお……いてえ……」

鎧「あ、俺助かった。」

ジョー「……」

シロえもん「うりゃあああ！！！」

鎧「何故シロえもん！？ぎゃあああ！？」

何故かシロえもんが現れ鎧にケツバット。

ルカ「助かるわけないでしょ？（怒）」

ターザン「みなさん、着きますよ。」

マーベラス「よ、ようやく終わった・・・」

しかし、これからが地獄の始まりだった。

つづく

バス内にて（後書き）

最近今更ながら著作権を気にするようになったターザンでした。

探偵事務所内にて

ゴークイジャー一同はついにのぞび探偵事務所に到着した。

ターザン「ええみなさん、ここがのぞび探偵事務所です。」

ルカ「一回来たから知ってる。」

ターザン「では中へ入りましょう。」

ターザンは事務所の入り口でパスワードを入力した。

『声帯検査です。』

ターザン「オンドウルラギツタンディスカアア!!」

ジヨー「おいおい。」

『声帯検査、一致しません。』

ハカセ「ぶふっ!?!」

『ハカセ、out』

マーベラス「なに笑ってんだ。」

ハカセ「だってあんな全力で叫んでおいて検査にひっかかるって・・・」

次に出てきたのは

mother

ネス

ネス「やあ!!」

ネスは持参のバットでハカセのケツを叩く。

ハカセ「ぎゃああ!?!」

アトム「それにしても辛いですね。」

鎧「このままじゃ1日もちません(汗)」

なんとか扉を開け中に入るゴークアイジャー一同。

ターザン「まずは所長に会いに行きます。」

ジョー「よく見たら改築してるな。」

二階

ターザン「所長、ゴークアイジャーを連れてきました。」

????「ご苦勞様。」

所長

ダークドリーム

ルカ（所長になってたんだ。）

ダークドリーム「お久しぶりねゴージャイジャー、早速だけどあなた達のコードネームを決めるわ。」

アイム「コードネームですか？」

ダークドリーム「じゃああなたから。」

ダークドリームは鎧を指差す。

鎧「俺ですか？」

ダークドリーム「そうよ、そうねえ・・・あなたは『オタク』。」

鎧「オ、オタク？」

ダークドリーム「次あなた。」

ダークドリームはアイムを指差す。

ダークドリーム「あなたは・・・『ヒメチャン』。」

アイム「なんだか懐かしいですね。」

ダークドリーム「次あなた。」

ダークドリームはハカセを指差す。

ダークドリーム「あなたは『ハカセ』。」

ルカ、マーベラス「・・・ぶふっ!?!」

「ルカ、マーベラス、out」

ルカ「まんまじゃん!?!きゃあ!?!」

マーベラス「なっ、お前は!?!」

現れたのは星飛雄馬

飛雄馬「だああああ!?!」

マーベラス「ぎゃああああ!?!」

星飛雄馬は持参のバットでマーベラスのケツを叩く。
ルカは電気ショックでしびれる。

ダークドリーム「次あなた。」

ジョー「(『無愛想』)とかだろ。」

ダークドリーム「『アタックNo.1』。」

鎧「ぶふっ!?!」

『鎧、out』

現れたのは

ダークドリーム「『マベちゃん』。」

マーベラス「他よりましか。」

ターザン「チッ」

鎧（今舌打ちした！？）

そしてゴーカイジャー一同は控え室に行く。
その途中

ターザン「あ、のぞヒビ久しぶり〜。」

夢原のぞみ

北条響

のぞみ「ターザンさんお久しぶりです！！」

響「ああ！！ゴーカイジャーだ！！」

マーベラス「よう。」

のぞみ「そうそうこれあげます。」

のぞみは突然飴の入ったプラスチックの容器を渡す。

マーベラス「お、ありがて・・・にゃあああああああああ
！？。」

蓋を開けようとした時マーベラスは二回くらい声を裏返して絶叫し

た。

鎧「うははははは！？にゃあってうははははは！？」

アイム「あははははは！？」

『鎧、アイム、out』

シロえもん「どりゃああ！！」

鎧「またかぎゃあ！？」

アイム「きゃあ！！ビリビリイイ！？」

ジョー「マーベラス、まさかビリビリがきたか？」

マーベラス「あ、ああ・・・」

のぞみと響は全速力で逃げて行った。

.....

ターザン「みなさん、お疲れさまです、まだけっこう時間があるのでそれまで控え室でお休みください。」

ターザンはゴーカイジャーを控え室に入れ出て行く。ゴーカイジャー一同はそれぞれの席につき机にうなだれる。

ハカセ「やっと休めるねえ。」

ルカ「まったく・・・椅子に座るのもやっとだわ。」

ふと鎧は机に目をやる。

鎧「そういえばひきだしの中何が入ってますかね？」

つづく

探偵事務所内にて（後書き）

次回、恒例のひきだし!!

引き出しにて

鎧は自分の机にある3つの引き出しのまず一つを開けた。

鎧「何も無い。」

2つ目を開けた。

鎧「ん？なんかDVDがありました。」

ハカセ「DVD?」

アイム「一体何でしょうか?」

3つ目

鎧「ス、スイッチ?」

赤いスイッチがあった。

鎧「マーベラスさん達のところにもあるんじゃないですか?」

ジョー「見てみるか。」

ジョーの引き出し一つ目

ジョー「何も無い。」

二つ目

ジョー「ない。」

3つ目

ジョー「……………」

大量のゴミ

マーベラス「ぶふっ!?!」

アイム「…………ふふっ……………」

『マーベラス、アイム、out』

マーベラス「な、何故ゴミが……………」

ドラベース

エモル

エモル「はいい!?!」

マーベラス「ぐああ!?!」

アイム「ビリビリイ!?!」

ジョー「ルカ、次お前だ。」

ルカ「はいいい。」

ルカは一つ目の引き出しをゆっくり開ける。

ルカ「ん？・・・ぶふっ！？」

バスコそっくり人形

ゴークイジャー「うはははは！？」

『全員、out』

登場したのは・・・

怪傑ズバット

イナズマン

キカイダー01

キカイダー

キョーダイン

マーベラス「なんか色々出てきた！？ぐああ！？」

ゴークイジャー「うわああ！？」

ゴークイジャー一同はケツバットやら電気ショックやらをくらった。

ズバット「ズバツと解決！！」

・・・

マーベラス「しかしバスコそっくり人形とは・・・」

ルカ「他は何もないわ。」

アイム「私がまいります。」

アイムが二つ目の引き出しを開けた。

アイム「何もありません。」

二つ目

アイム「ありません。」

三つ目

アイム「ほっ……何もありませんでした。」

ルカ「ハカセ!!!早く!!!」

ハカセ「わ、わかったよ……」

ハカセが引き出しを開けようとすると

鎧「ルカさん、人形貸してください。」

ルカ「何に使う気?」

ルカはバスコそっくり人形を鎧に渡す、鎧は無言でバスコそっくり人形を操りリュウレンジャーのポーズをつくる。。

ハカセ、鎧、マーベラス「……ぶぶっはははははははは!?!?」

『ハカセ、鎧、マーベラス、out』

再びイナズマン、キカイダー、ズバット参上。

マーベラス「鎧！！てめえぐああ！？」

ハカセ「何で人形なんかでぎゃあああ！？」

鎧「な、なんとなくうわおお！？」

ズバット「ズバットと解決！！」

.....

ハカセ「今度こそ開けるよ！！」

一つ目

ハカセ「なし！！」

二つ目

ハカセ「なし！！」

三つ目を開けようとしたその時

バチッ

ハカセ「うわあああ！？」

ルカ「うははははは!？」

『ルカ、out』

ルカが衝動で笑ってしまった。

ルカ「きゃあああ!？」

マーベラス「しかし女だけじゃなくハカセまで電気か。」

ジョー「あとはマーベラスだけか。」

マーベラス「あ、ああ、ハカセ三つ目は何もなかったのか?」
ハカセ「うん。」

マーベラスが引き出しを開ける。

一つ目

マーベラス「ま、またDVDか。」

二つ目

マーベラス「なし。」

三つ目

マーベラス「・・・ぶふっ!？」

ワルズ・ギルのプロマイド(大量)

『マーベラス、out』

アカレンジャー参上

アカ「トイヤー!!」

マーベラス「ぐああ!?!」

.....

ゴークカイジャー一同は引き出しを全て見終わった。

鎧「スイッチにDVD・・・気になりますね。」

ルカ「ってよく見たらバスコそっくり人形にもスイッチがついてる
んだけど。」

アイム「とりあえず確かめてみましょう。」

つづく

引き出しの中身にて

ルカはちょっととした好奇心でバスコそっくり人形のスイッチを押した。

『マ〜べちゃん、タ〜イキ〜ック』

マーベラス「・・・は？」

『マーベラス、タイキック』

すると

????「テンマレンジャー!!!天重星ショウジ!!!」

鎧「テンマレンジャーだあ!!!」

テンマ「おらあ!~!」

テンマレンジャーはマーベラスを思いきり蹴り飛ばす。

マーベラス「ぎゃあああ!~?」

ジヨー「こ、こういう仕掛けもあるのか?」

ハカセ「と、とりあえずスイッチは押さないで・・・」

アイム「あっ・・・」

ポチッ

鎧「お、押しちゃったんすか!？」

すると

『マーベラス、タイキツク』

マーベラス「なああああにいいいいいい!？」

????「体に漲る無限の力!!アンブレイカブルボディ!!ゲキレツド!!」

現れたのはゲキレツド。

ゲキレツド「ワツキワキだああああ!!」

マーベラス「× *!？」

鎧「マーベラスさああん!？」

ゲキレツドは四足で走り去って行った。

ルカ「ああ・・・早く明日になんないかな・・・」

ハカセ「そうだこのDVDなんだろ？」

ハカセはDVDに興味を持つ。

ジヨー「・・・見るのか？」

アトム「ですが笑いの仕掛けは手早く無くしたほうが良いと思います。」

アイムの意見にみなが頷く。

ハカセ「よし、やってみよう。」

ハカセはDVDを部屋にあったプレーヤーで読み込ませた。

【テレビ画面】

「さあ始まりましたお笑い探偵事務所！今日はどんな芸人が来るかな？」

「???」はいど〜も〜仮面ライダーガイです。」

「???」イエローライオンです。」

現れたのは仮面ライダーガイとライブマンのイエローライオンだった。

ガイ「いやああつはなついでん〜。」

イエローライオン「古いぞガイ！！そりゃタイキツクだ！！」

ガイ「ツツコミが弱いよイエローライオン〜、君もタイキツクだ！！」

.....

「ゴーカイジャー」・・・?」

鎧「仮面ライダーガイ?・・・まさか・・・」

ジョー「イエローライオン、大原文・・・まさか・・・」

そのまさか

『ジョー、鎧、タイキック』

ジョー、鎧「やっぱりいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいい!!?」

ジョーと鎧は同じ名前のヒーローの責任としてタイキックをされる。

???「ナアアアミすわああああん!!」

ワンピース

サンジ

鎧「ぎゃあああ!?!」

ジョー「ぐああ!?!」

.....

ルカ「ていうか笑い関係なくない?」

ハカセ「僕もそう思ってた。」

するとターザンが部屋に入ってきた。

ターザン「みんな、体験入学者歓迎会をやるから俺についてきてくれ。」

マーベラス「外はなんでも起こりそうだな。」

ゴークイジャー一同はターザンの跡についていき歓迎会会場に向かう。

つづく

引き出しの中身にて（後書き）

はっきり言ってギャグでしょうか？

歓迎会にて

ゴーカイジャー一同は歓迎会会場に到着。

マーベラス「どうせまた仕掛けがあるんだろ。」

アイルム「一体何が起こるのでしょうか？」

すると

ターザン「それではこれより、のぞヒビ探偵事務所の体験入学者歓迎会を始めます、探偵事務所長・ダークドリームよりあいさつがあります。」

ダークドリームがゴーカイジャー一同の前に立つ。

ダークドリーム「・・・TODAY IS GOOD WETHE
R・・・」

ルカ、ハカセ「ぶふっ!?!」

『ハカセ、ルカ、out』

現れたのは仮面ライダーオーズ。

オーズ「セイヤアアア!!」

オーズのケツバットは誤ってハカセの背中に直撃。

すると

ダマラス「このダマラス様が貴様らを・・・黙らす!!!」

ゴークイジャー「・・・・・・・・」

ターザン「・・・・・・・・」

狼「・・・ぶふっ!?!」

『狼、out』

狼「ええ!?俺も!?!」

現れたのは仮面ライダーファイズ、乾巧。

ファイズ「手加減しねえぞ、ヤアアア!?!」

クリムゾンケツバット

狼「ぎゃあああああああああああ!?!」

狼は元の世界に飛ばされた。

ハカセ「は、早く戻ろうよ!?!」

ゴークイジャー一同は控え室に戻った。

.....

ターザン「しかしどうですか、気分は？」

ジョー「最悪だ。」

ルカ「本当、早く終わりたいわ。」

ゴークイジャー一同は控え室に入った。

ターザン「昼食の時間がもうすぐですのでしばらくお待ちください。」

鎧「またなんか仕掛けがありそう……」

つづく

昼食にて

控え室に戻ったゴーカイジャー一同は昼食の時間になった。

ターザン「みなさん、昼食はバイキングです。」

マーベラス「バイキング？あの好きなもん食っていいってやつか？」

ターザン「そうです、ですが食べられるのはこれから始めるゲームで決めます。」

すると控え室に料理とカードが運ばれた。

アイム「カード？」

ターザン「まずこのカードを引いていって1人三枚集まったら終わりです、カードには料理の名前が書いてあります。」

マーベラス「面白そうじゃねえか、やるぞ。」

じゃんけんでカードをひく順番を決める。

ジョー ルカ 鎧 ハカセ アイム マーベラス

ジョー「まずは俺だな。」

ジョーがカードをひく。

ジョー「オニギリか。」

ジヨー、オニギリget

ルカ「次は私ね。」

ルカがカードをひく。

ルカ「ひじきかぁ。」

ルカ、ひじきget

鎧「次は俺ですね!!おりゃあ!!」

鎧がカードをひく。

鎧「・・・ぶふっ!?!」

『鎧、out』

現れたのは仮面ライダーシン、バットを構える。

シン「ぐおお!!」

鎧「ぎゃあ!?!」

マーベラス「鎧、何をひいたんだ?」

鎧がカードを見せる。

桃太郎の格好をしたマーベラスのプロマイド。

ハカセ、玉子焼き get

ハカセ「やった!!」

アイム「次は私ですね。」

アイムがカードをひく。

アイム、納豆 get

アイム「納豆とは何でしょう?」

鎧「ええ!? 納豆知らないんですか!」

ジョー「俺がよく体力つけるために毎朝食べてるだろ。」

アイム「あの臭いがしてネバネバしているやつですか? (汗)」

ルカ「確かにアイム苦手そうだね。」

マーベラス「やっと俺か。」

マーベラスはカードをひく。

マーベラス、イナゴ get

マーベラス「いつ!」

ジョー「イナゴ?」

ジヨーがカードをひく。

一品没収

ジヨー「は？」

ジヨーはオニギリを没収された。

ジヨー「なにい！？」

ルカ「次は私ね。」

ルカはカードをひく。

ルカ、横取り

ルカ「横取り？」

ターザン「メンバーの料理をひとつだけ横取りできます。」

ルカ「じゃあハカセのベーコン。」

ハカセ「ええ！？」

鎧「次は俺！！気力てんしいいいいいいん！！」

鎧はカードをひく。

鎧、赤龍軒の餃子

鎧「よおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおつつつつつつつつつつつつつつつつつつつつ
あああああああああああああああ!!」

鎧はかんきわまってダイレンジャーのメンバー全ての名乗りポーズをした。

ハカセ「つ、次は僕だね。」

ハカセはカードをひく。

ハカセ、チャーハンget

ハカセ「や、やった!!」

マーベラス「チツ。」

アイム「次ですね。」

アイムはカードをひく。

アイム、コシヒカリget

ジョー「アイムは和食統一か。」

アイム「良かった…」

マーベラス「たく、もうイナゴはかんべ・・・」

マーベラス、イナゴget

マーベラス「だあああああああああああああああああああ
？」

マーベラスは声を裏返しながら叫んだ。
そして昼食。

亮「鎧君、いくらでも焼くからね!!」

鎧「はいいいい!!おおおおおかわりお願いしまああす!!」

ルカ「五目ご飯も結構美味しい!!」

ジヨー「漬け物ひとつだと・・・」

マーベラス「ましなほうだろ!!」

ハカセ「このチャーハン美味しい!!」

アイム「納豆というのは美味しいですね。」

それぞれ昼食を済ませて休憩していると

鎧「……………」

ゴークイジャー「……ぶふっ!?!」

鎧がバスコそっくり人形でアクションシーンを再現していた。
鎧も自滅だが

ルカ、アイルム「きゃあ!?!」

重甲ビーファイター

ブルービート

ビーファイターカブト

仮面ライダーカブト

カブタツクスーパーモード

カブト一同「トイヤ!?!」

男子「きゃあ!?!」

つづく

昼食にて（後書き）

年末までに延長します

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3613z/>

海賊戦隊ゴーカイジャー!!絶対に笑ってはいけないのぞヒビ探偵事務所!!

2011年12月24日02時48分発行